

(様式5)

調査報告書

外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	<u>11</u>
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を实践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		<u>30</u>

訪問調査日	平成19年 10月 12日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ~ 終了 15時 00分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム加世田 (鹿児島県)
-------------------	------------------------

評価調査員の氏名	氏名 <u>中村 朋美</u>
	氏名 <u>福留 昭</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u>
	氏名 <u>鬼塚 毅</u> ヒアリングを行った職員数 4名

※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月15日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県 指定第4671100214号		
法人名	有限会社 グループホーム加世田		
事業所名	グループホーム加世田		
所在地	鹿児島県南加さつま市加世田本町11番地2 (電話) 0993-52-6066		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成19年10月12日	評価確定日	平成19年11月22日

【情報提供票より】(平成19年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 8月 8日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	25 人	常勤 8人, 非常勤 17人, 常勤換算	20.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨陸屋根	造り
	4階建ての	1～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	1日当たり400円	
敷金	有() 円	〇無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり		900 円	

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	27名	男性	2名	女性	25名
要介護1	6名	要介護2		12名	
要介護3	4名	要介護4		5名	
要介護5	0名	要支援2		0名	
年齢	平均 84.6歳	最低	62歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	南さつま中央病院・友松内科クリニック・西歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域に根ざした信頼されるホームとして、気軽に訪問しやすい玄関まわりの雰囲気づくりや地元の方々との交流する機会作りが積極的に行われている。入居者の状況に応じ現在4ヶ所の医療機関で通所によるリハビリが行われていることで、入居前からのかかりつけ医や地域の医療機関とも相談協力信頼関係ができていくことがうかがえる。また、24時間体制の協力医療機関による医療連携体制は入居者、家族が安心して生活ができる。トイレや脱衣所、個人の居室にも、入居者が安全で、利用しやすい配慮や工夫がみられる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価を活かして、ホームの運営会議、勉強会などで話し合い、物品の保管場所や、書式様式の変更、栄養士による栄養バランス、味付け、量などの助言を得るなどサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は、評価の意義を理解し、各ユニットのリーダーを中心に話し合いながら、自己評価を行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、入居者やホームの取り組み状況を報告している。また、評価結果の公表や改善にむけての話し合いを含め大まかな議題は一年間計画を立てて意見をもらうようにし、サービスの質の向上を目指している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	入居時に相談苦情窓口の説明を行い、玄関口には意見箱を設置している。また、職員は家族が意見を言いやすい雰囲気づくりに心掛けている。出された意見は、ホーム内での運営会議等で協議し、それらを運営に反映させるように取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入している。祭りや清掃作業などの地域や商店街の行事に参加している。また、近隣の散歩や買い物、医療機関でのリハビリ、手作りの作品展示を市民会館で計画するなど積極的に地元の人々との交流に取り組んでいる。

2. 評価結果（詳細）

主任調査員 中村朋美 / 調査員 福留 昭

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初からの理念であり、個人の尊厳と生活の質を保ち地域と結びついたその人らしい安らかな生活を目指す内容である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者はミーティングや申し送りの中で、言葉づかい等日常のケアでの気付きを職員に話しながら、職員と共に理念の共有や実践に日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入している。祭りや清掃作業などの地域や商店街の活動に参加している。また、近隣の散歩や買い物、医療機関でのリハビリ、手作りの作品展示を市民会館で計画するなど積極的に地元の人々との交流に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、各ユニットのリーダーを中心に話し合いながら自己評価を行っている。評価を活かして、物品の保管場所の検討や、書式様式の変更、栄養士から助言を得るなど具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者やホームの取り組み状況を報告している。また、評価結果の公表や改善にむけての話し合いを含め大まかな議題は一年間計画を立てて意見をもらうようにし、サービスの質の向上を目指している。		

グループホーム加世田

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村とは、介護保険、障害福祉など様々な窓口と相談連携を図り、ホームや入居者の理解、協力をもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、写真入りの近況のお知らせを送付している。健康状態や気になることは、随時、家族の来訪時や電話連絡を行っている。職員の異動は、家族の来訪時に挨拶している。金銭は、ホームとして預かっていないためホームで立替があった場合に、領収書を家族に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に相談苦情窓口の説明を行い、玄関口には意見箱の設置をしている。また、職員は家族が意見を言いやすい雰囲気づくりに心掛けている。出された意見は、ホーム内での運営会議等で協議し、それらを運営に反映させるように取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新たな視点でケアが行えるように、ホームの運営会議で慎重に話し合いながら、必要最小限のユニット間の異動を行う場合がある。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的にホーム内の研修があり、ホーム外での研修も職員は参加している。研修後は、全職員に伝達研修を行っている。また、職員の資格習得にむけて積極的に支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加している。他の同業者とは、相互のホームで研修を行い、また、運営推進会議に参加するなど、相談、協力関係が構築されており、互いのサービスの質の向上を目指している。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に面談を行い、入居者の状況に応じて数日間の体験入居を行うこともある。また、入居者が自分の役割を感じ、ホームに早く馴染めるように職員は検討を重ね支援している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は一方的に介護するのではなく、感謝の気持ちや謙虚な気持ちを入居者に常に伝えながら、入居者と共に支えあう関係を築けるよう取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との普段の会話や表情をみながら、また、家族と話しながら思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常的に、本人、家族の意向の把握を行い、職員の意見は毎日の支援経過、毎月の評価等に記入してある。また、毎月カンファレンスを行いそれぞれの意見を反映させた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日、毎月のケアプラン実施表にてモニタリング、評価を行っており、状態変化時には、随時、現状に即した介護計画を作成している。		


外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員の資格や経験を活かした各種の相談の支援、入居者の意向や状況に応じて、墓参りや、自宅訪問、医療機関でのリハビリ等柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を聞き、入居前のかかりつけ医を大切にしている。各診療科目の専門とするいくつかのかかりつけ医とも相談、協力の関係が構築されており、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書に医療体制の指針が明記されており、入居時に説明し、随時確認を行っている。入居者の状況に応じて、医療機関、家族等と細かい相談を重ねながら、方針の共有に取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、常に言葉使いや対応について職員に話している。職員の言動は馴れ合いが感じられるものもある。個人情報の使用については重要事項説明書に明記され、留意しているが、面会簿の配慮がなされていない。	○	職員は入居者の誇りやプライバシーに配慮した言動の意識向上を図ることが望まれる。また、面会簿にも個人情報保護の観点から配慮が望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れの中、食事や入浴、起床、就寝など本人の希望や状況に応じて入居者のペースを大切に柔軟に対応している。		

グループホーム加世田

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と共に育てた野菜を食材に利用し、入居者の状況に応じて、買い物や、調理の下ごしらえ、片付けなど職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、ユニット毎に、週3回から毎日を基本としており、入居者の希望に応じて、入浴できるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を活かした役割をはじめ、折り紙や新聞たたみ、洗濯物取り込み、野菜作り、調理等や買い物、散歩など入居者ひとり一人に応じた役割、楽しみ、気晴らしの支援が出来るように取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の状況や希望に応じて、散歩や買い物を行い、医療機関へのリハビリに通う入居者もいる。墓参り、自宅訪問、美容室など柔軟に外出の支援がなされている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が、鍵をかけないケアを認識しており、日中は鍵をかけていない。入居者の表情や言動を職員は見守っており、外出希望がある入居者については、一緒に外出している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導立会いのもと、同じビルの上階の企業も参加して、日中想定での避難訓練を行っている。夜間想定での避難訓練は行われていない。	○	夜間想定での避難訓練の実施と、夜間時の地域の人々の協力が得られるように取り組むことが望まれる。

グループホーム加世田

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎日記録がなされている。水分量については、一日の摂取量をおおまかに把握している。管理栄養士から、栄養バランスや味付け、量のアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、ソファが随所に置かれ、ゆったりと明るい。光や音にも配慮しており、居心地良く過ごせる工夫がみられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、タンス、コタツ等が持ち込まれ、入居者に応じて、敷き畳を設置するなど、それぞれ個性的で本人が居心地良く過ごせるような工夫がみられる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。